

認知症診断における 脳SPECT検査の役割

—VSRADとの併用を中心に—

2009年

4月19日(日)

12:10~13:00

パシフィコ横浜

会議センター 3階 303

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1

司会

○ 松田 博史先生

(埼玉医科大学国際医療センター 核医学科 教授)

演者

○ 蔭山 博司先生

(医療法人雄心会 函館新都市病院 脳神経内科 科長)

本学会でのランチョンセミナーは、整理券(チケット)制度になっております。

整理券をお持ちでない場合はお弁当をお渡しできない可能性がありますのでご了承ください。

なお、整理券をお持ちでない場合でも聴講は可能です。

整理券配布場所……パシフィコ横浜 3階 303・304 前フォワイエ

配布日時……………4月19日(日)の7:15からランチョンセミナー開始時まで。

認知症診療における脳SPECT検査の役割 —VSRADとの併用を中心に—

近年患者数が急増している認知症だが、その診療に取り組む医師はまだ不足している。またレビー小体型認知症の様に、運動症状と精神症状がオーバーラップしたものでは、神経内科医と精神科医の連携も必要となる事から、脳機能画像の役割は今後さらに大きくなるものと予想される。

核医学による脳機能画像は血流や代謝などの機能情報が得られ認知症の画像診断においてはMRIと並んで重要な役割を果たしている。本セミナーでは認知症診療の第一線で活躍中の神経内科医の立場から、高磁場MRIと脳SPECT統計画像を用いた認知症診療の実際について解説いただく。

埼玉医科大学国際医療センター
核医学科 教授

松田 博史

About JCNN

日本脳神経核医学研究会について

日本脳神経核医学研究会は、脳核医学に関する基礎および臨床研究の推進とその普及をはかり、それを通じて我が国の学術文化の発展に寄与し、国民の保健と福祉の向上に資すると共に、国際協力につとめることを目的としています。

脳核医学の発展には、放射線科や核医学科において検査を実施する医師や技師に加えて、脳神経外科、神経内科、精神科などで実際の診療に携わる臨床医、装置や医薬品の開発を行う物理工学、薬学、化学などの基礎研究者の協力が不可欠です。本研究会は、これらの学際的な領域の医療関係者や研究者を対象に、セミナーや講演会などを開催して、脳核医学の幅広い普及をめざします。また、脳核医学に関する多くの課題について議論する場を設定して、検査法の確立、臨床使用のためのガイドラインの作成、国際的な枠組みの中で情報交換などを行っていきます。

研究会の会員相互の情報交換には、インターネットを活用して幅広く情報を提供していきたいと考えています。本研究会が主催、共催する行事や関連研究会の案内もホームページでご覧いただけます。会員が情報を共有するとともに、外部に向けて発信できる新しいタイプの研究会を指向して活動を行っていききたいと考えています。この趣旨にご賛同いただき、脳核医学の発展のために、是非本研究会にご参加下さい。

詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www2.convention.co.jp/jcnn/>

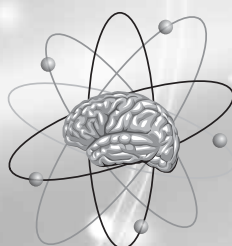
日本脳神経核医学研究会事務局

〒100-0013 千代田区霞が関1-4-2 大同生命霞ヶ関ビル18F

日本コンベンションサービス株式会社内

E-mail: infojcnn@convention.co.jp

Tel: 03-3508-1214 Fax: 03-3508-1302



JCNN